【歴代古案】　一六二七

被寄思、紙墨并梅染一局送賜候。御懇志喜悦候。仍而(越後)奚元被屬御本意付而、急度被申上御祝著候。彌諸口靜謐候條可御心安候。其表種々造意申迴條、始末於有相替子細者頓速御注進尤候。委曲相浦與次郎可被申候之間、不能具候。恐々謹言。

(天正七年)五月廿四日　　政(上條)　繁

飯田與三右衞門尉殿
御返報

五月廿七日。德田秀章、鹿島郡龍門寺に、羽咋郡德田之内百苅の地を寄進す。

【龍門寺文書】　鹿島郡　一六二八

今度者御ねんごろ御寺かしあづかり、祝著存候。それにつきけいび(輕微)至極候といへ共、德田のうちせとのまへあな田と申所百苅、年貢四俵、きりつハ七合升四斗いり進上申候。御ちやうらう(長老)様御いつ世間參候。仍きしん狀如件。

(天正七年)五月廿七日　　同　松犬丸
德田佐渡守
秀　章　在判

龍門寺崇悦様　參

六月廿三日。織田信長、長連龍に、重ねて今秋出馬すべきことを報じ、併せて溫井景隆・三宅長盛等と妥協すべきことを告ぐ。

【長　文書】　金澤　一六二九

條々委細披見候。仍能州より申越候趣、先書にも申候き。於其方示合、無越度候様調儀專一候。次越中面事、神保(長住)入國候て過半相隨候由注進候。可然候。何様來秋出馬候はゞ、可屬平均候。猶珍事候ハゞ、重而可有注進候也。

(天正七年)六月廿三日　　信(織田)　長　印

長　孝　恩　寺

七月十一日。織田信長、長連龍に、自ら出勢の準備を怠らざることを報ず。

【長　文書】　金澤　一六三〇

兩通委細披見候。仍能州七尾・同國中之趣得心候。然者出勢事、聊以無由斷候。急速先人數之儀可申付候。南方事堅申付無異儀候。丹州(丹波氷上波多野秀治)面隙明候。定可有其聞候。被成其意、萬方調略可相分之儀專一候。猶堀久太郎(秀政)・佐々權左衞門(長秋)可申候也。

(天正七年)七月十一日　　信(織田)　長　印

長九郎左衞門尉殿

七月十七日。上杉景勝、羽咋郡末森城主土肥親眞に、金澤御坊の下間頼純と協力すべきことを告ぐ。

【溫故足徵】　一六三一

重而使札到來、喜悦之至候。仍下間侍從(頼純)入魂、其地堅固相抱候由、肝要候。其許様子之義、上旬以使僧侍從方に申屆候之條、彌不可有如在候。可心易候。然者國之儀、追日令靜謐候之間、秋中至于越中可令出馬候。然間彼國一變案内候。萬事期其節候。恐々謹言。

(天正七年)七月十七日　　景(上杉)　勝　在判

土肥但馬守(親眞)殿

(越佐史料にこの文書を天正九年に引用するものは非なるべし。)

七月。鳳至郡鐵川寺の衆徒等、松阿に、阿岸村より毎年拾貫文の湯洗錢を納入することを告ぐ。

【寶泉寺文書】　鳳至郡　一六三二

阿岸村ヨリ湯洗錢与候て、毎年拾貫文、鐵川寺惣衆徒中へ相立申候。年中諸神役祭禮令執行之事、此旨御披露奉仰候也。

天正七年七月吉日　　衆　徒　中　在判

八ヶ村(柳比)鐵川寺

松　阿　御中

八月十三日。三宅長盛等、羽咋郡氣多社に、その社務領を還附す。

【氣多神社文書】　羽咋郡　一六三三

一宮社務領之儀、如前々一圓返置候。然者修理造營之儀、